Bグループ　ラオス・フィリピン・シンガポール

＜国立妙高青少年自然の家＞

招聘日程

期　日	内　　容
11月19日(火)	成田空港到着 国立妙高青少年自然の家へ移動
11月20日(水)	妙高市長、教育長表敬訪問 妙高市立新井中学校と第１回交流活動
11月21日(木)	日本食文化体験（うどん作り） 地域生活文化体験（わら草履作り）
11月22日(金)	日本文化体験 長野市（善光寺・エムウエーブ）見学
11月23日(土)	民泊プログラム ホストファミリーとの交流
11月24日(日)	民泊プログラム ホストファミリーともちつき体験
11月25日(月)	上越教育大学訪問 大学生との交流
11月26日(火)	妙高市立新井中学校と第２回交流活動 フェアウェルパーティー
11月27日(水) ～29日(金)	東京プログラム

日本人参加者の日程　人数36名（交流者240名）

期　日	内　　容
11月20日(木)	妙高市立新井中学校にて交流
11月21日(木) ～　25日(月)	特別活動の時間、放課後などを活用し、実行委員会を中心にした、意見交換会へ向けての事前学習
11月26日(火)	妙高市立新井中学校にて交流 意見交換会 フェアウェルパーティー
11月27日(水) ～28日(木)	代表４名が東京プログラムへ参加 ＊合同評価会で発表

ラオス

No.	名前	年齢	性別
1	Kethida Phouangphet	15	女
2	Souphatta Phamavanh	15	女
3	Viriya Sengchanh	14	男
4	Dungchai Songeun	16	女
5	Pralinya Chaleunsouk	16	男
6	Sathaphone Phimpho	15	男
引率	Soudalee Phanthamixai	—	女

フィリピン

No.	名前	年齢	性別
1	Joashriel Abania	14	男
2	Namahig Asa Arao Mahiwo	14	男
3	Ella Beatriz Garcia Saga	15	女
4	Chelseya Joanna Desembrana Laigo	15	女
5	Maria Mikaela Renee Dyoco Cervantes	14	女
6	Maria Denise Reyes Sarmiento	15	女
引率	Priscilla Legaspi Minas	—	女

シンガポール

No.	名前	年齢	性別
1	Ang Jun Sheng Jordan	13	男
2	Chang Po Chun	15	男
3	Chong Xin Zi, Claire	16	女
4	Christina Wong Yi Zhen	16	女
5	Tan Ying Hui	13	女
6	Jasmine Chua Xianhui	15	女
引率	Ng Hon Yuen	—	男

プログラムの特徴

1．招聘者に対するプログラムの特徴について

(1)　妙高市立新井中学校との交流

招聘者にとってもっとも心に残るプログラムとなった。実際に授業を受け、給食を食べ、休み時間をともに過ごし、清掃活動や部活動を体験した。日本人の友達との友情を深めるとともに、自国の学校教育との違いについて考察することができた。

【部活動の体験】

(2)　民泊を通したホストファミリーとの交流

それぞれの国ごとに民泊を行い、ホストファミリーと交流した。生け花や着物の着付け、地元の料理などそれぞれが貴重な体験をすることができた。また２日目は３つのファミリーが合同で公民館を借りて、餅つきを体験させていただいた。日本のおもてなしの心について学んだ。

【ホストファミリーとの交流】

(3)　妙高市長･教育長表敬訪問

妙高市役所を訪問した。市役所をあげての歓迎式だけではなく意見交換会を開いていただき、市長、教育長に自国について紹介したり、妙高市についてのお話を聞くことができた。

(4)　上越教育大学との交流

大学をあげて歓迎していただき、大学の国際交流の授業に参加させていただいたり、特別に日本語の授業を開講していただいた。学生とも交流し、一緒に学食を体験したり、アカペラサークル、ストリートダンス部の活動に参加させていただいた。

【市長･教育長表敬訪問】

(5)　長野市内見学

善光寺・オリンピック記念館（エムウエーブ）を見学した。日本文化について深く学んだり、初めてのスケート体験を行うことができた。

【代表生徒による意見交換会】

【２４０人との記念撮影】

2．日本人参加者に対するプログラムの特徴について

妙高市立新井中学校、第２学年生徒２４０名に受け入れていただき、交流会を実施した。新井中学校ではASEAN交流会担当を新たに組織し、校長先生をはじめ全校体制で受け入れていただいた。ASEANの生徒１名に対し２名の交流生徒を立候補を元に決めていただき、生徒実行委員会を組織した。

(1)　第１回交流活動

全校交流会、給食体験、学級交流会、授業体験、清掃活動、部活動体験を行った。２年生各学級に３名ずつアセアンの中学生を招き、交流生徒が中心となりながらともに過ごした。どの学級も先生方の指導がすばらしく、お互いにすぐに打ち解け、身振り手振りを使いながらコミュニケーションをとっていた。英語が得意でなくても自分の意志を伝えることができたことは大きな自信となった。

(2)　第２回交流活動

学年交流会、代表生徒との意見交換会、レクリエーションを行った。意見交換会は①ASEANに広がっている日本の文化について②ASEANと日本の違いについて③将来の夢についての３つのテーマを設定し、生徒実行委員会が中心となって進められた。ASEANの生徒が日本の文化のすばらしさを発表することで生徒は自国について誇りを持ち、積極的に外国の仲間と関わろうとする意欲を養うことができた。また、別れの式では心と心の交流が深まり、時間がすぎてもお互いに別れを惜しんでいた。

(3)　評価会への参加

代表生徒４名が参加した。今の自分たちにできることを具体的に考え、堂々と発表することができた。

成 果 と 課 題

■参加者の声

＜フェアウェルパーティーでの姿から＞

「お世話になった人たちにお礼の気持ちを示そう」というねらいを立て、ASEAN参加者がホストファミリーと新井中学校の交流生徒を招待するという形で開催した。代表スピーチの中で、「日本のおもてなしは本当に素晴らしいと思いました。」という言葉があった通り、参加者は伝統芸能を披露するなど、招待した方々にお礼の気持ちをもって接していた。ホストファミリーや新井中学校の方々に喜んでいただき、とてもうれしそうだった。

新井中学校の代表生徒も、「コミュニケーションに自信がついた。」「楽しく交流できて自信になった。」等、自らの成長を実感している発表をしていた。

＜毎日のふり返りから＞

「日本人と交流することで、自分はもっと積極的にならなければいけないと感じた」（フィリピン人参加者）

「私は家に帰ったらお母さんにホストファミリーになってと頼みたいと思う」（ラオス人参加者）

「もっと日本語が必要と思った。日本語をがんばって勉強したい」（シンガポール人参加者）

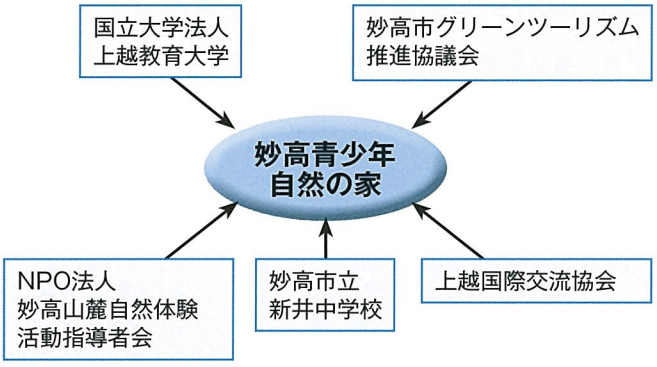
参加者はすべて、毎日ふり返りを行う中で、今、自分がやるべきこと、やりたいことを具体的にしっかりと考えることができた。

【フェアウェルパーティーでおもてなし】

【ホストファミリーのみなさんと餅つき後の記念撮影】

■運営施設企画委員会開催による事業の質の向上について

運営施設企画委員会



新しい公共型の事業運営を行い、企画委員の方々にそれぞれの活動の部分で参画していただいた。それぞれの専門性を十分に生かしていただくことで、非常に活動の質の高い事業になった。

○妙高市立新井中学校
　中学校との交流プログラムの計画と運営
　日本人中学生への指導
○妙高市グリーンツーリズム推進協議会
　民泊プログラムの作成
○国立大学法人上越教育大学
　大学訪問の計画と運営
○NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会
　民話プログラムなどの運営
○上越国際交流協会
　通訳業務

■考察（成果と課題）

今回、本部からの計画を受け、妙高では育てたい人物像を次の３点に設定した。

①交流プログラムを通して自国にいかせるお互いの文化を具体的に語れること。

②自分の将来の姿を具体的に見据え、今自分のやるべきことがわかること。

③お互いに積極的にコミュニケーションをとろうとする意欲と態度を身につけること。

引率の先生方とも共通理解を図り、参加者は活動を通して３つのねらいを十分に達成することができた。反面、「国としての使命」を考えることは十分にはできなかった。育てたい人物像についてはしっかりと検討する必要があることを感じた。

日本人参加者との交流については新井中学校の計画の元で行い、お互いに素晴らしい成果をあげることができた。特に新井中学校は２４０人の２年生生徒全員が交流を通して、「もっと英語を話せるようになりたい。」「いままで気にもしなかった外国の事について興味がわいた。」というように具体的な感想をもつことができた。

妙高青少年自然の家は新しい公共型の施設運営を行っており、そのおかげで市長との意見交換会など、他施設ではできないプログラムを実現することができた。専門性の高い方が参画してくださることで事業の質は飛躍的に向上した。

Bグループ東京プログラム（ラオス・フィリピン・シンガポール・日本・カンボジア・マレーシア）

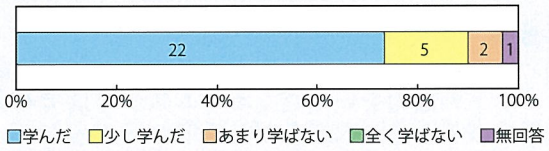
【ラオス大使館訪問】

【フィリピン大使館訪問】

【シンガポール人留学生からの留学体験談】

【マレーシア・カンボジア人参加者の浅草訪問】

大使館訪問や留学生の話により自国と日本の現在の関係を学びましたか



＜参加者の声＞

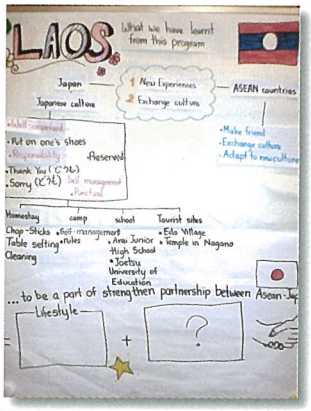
・大使館では、自国が何故日本と関係があるかについて説明してくれた。

・日本に駐在するシンガポールの職員が直接体験した話を聴くことが出来て有益だった。

＜留学生の声＞

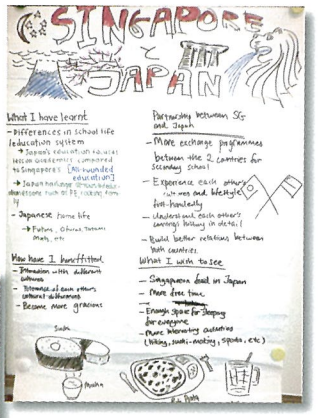
ジュニアプログラムを通じて、自分の国の中学生と日本で過ごすことができ、とても貴重な経験になった。自分の国でも、中学生と接する機会もなかなかなく、このプログラムを通じて最近の若者の行動や考え方を知ることができた。また、このプログラムで中学生たちに日本で様々な日本文化を体験させ、グループメンバーと相談して自分の体験を発表させることはとても良い経験だと思う。様々な国の学生の前で自分の考え方をしっかり発表することができ、社交性や自己成長に繋がると思う。(マレーシア人留学生)

Bグループ評価会（ラオス・フィリピン・シンガポール・日本・カンボジア・マレーシア）

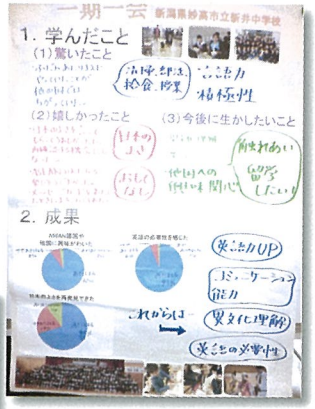


◆アセアンと日本の関係強化のためにしたいこと
①日本のアニメに興味があるため、留学するための奨学金を得たい。
②アセアン＆日本関係強化委員会の設立。
③日本語と英語の習得。
④アセアンと日本の友人とコンタクトを取り続ける。
⑤ホストファミリーになり、日本人を受け入れる。
⑥この事業への参加を多くの人に勧める。

◆日本とフィリピンの強い絆
①技術供与：フィリピンは日本から技術を学んだお陰で、自力で開発できるようになった。
②農業：農業は日本、フィリピンの両国のGNPに寄与し、雇用も創出している。このような関係は両国の経済発展に繋がるだけでなく、親交を更に深める。
③災害支援：フィリピンは大きな台風被害に遭ったが、日本は多くの支援をしてくれた。逆に東日本大震災、原発事故の際にはフィリピンは日本に対して、様々な支援を行った。
④労働力：日本は少子高齢化が進行し、フィリピンの若い労働力を必要としている。



◆二国間関係を強化し、活発な人的交流を実施
①教育：日本では幅広い分野の教育を行っている。ほぼ毎日の課外活動、放課後の掃除、昼食を教室で食べるなど。
②日本の生活：ホームステイでは日本の生活が体験できた。日本人は誰にでも元気よく挨拶していて驚いた。
③自然：妙高の自然はシンガポールで見られる自然とは異なる。
④日本人の姿勢：日本人からお互いを尊重し合う姿勢を学べた。日本人の優しさに触れ、心が温まった。
⑤歴史：日本は多様な歴史を持っており、シンガポールとは大きく異なる。お互いの歴史を知れば、二国間関係を強くすることができると思う。まずは両国の人的交流を活発にしていきたい。



◆学習したこと
①英語や日本語で積極的に交流しようとする向上心。
②おもてなしの心を持って交流し、日本の良さを再確認した。
③英語力向上、海外への興味拡大、留学志望者が増えた。
◆成果
①90%がアセアンへの興味が湧いた。
②75%が日本の良さを再発見した。
③93%が英語力向上の必要性を感じた。世界言語の英語を学ぶことの重要性を再確認した。
◆今後活かしたいこと
異文化への理解を深め、英語力＆コミュニケーション能力を向上させる。